

令和9年産 大麦『ファイバースノウ』栽培こよみ

令和8(2026)年 8月
アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

大麦栽培のコツ： ① 早めの排水対策で単収300kgを確保 ② 計画的な圃地化とブロックローテーションで連作を回避

栽培管理のポイント	9月	10月	11～12月	積雪期間	3月	4月	5月	6月
	★播種前の排水対策は確実に	★耕起は丁寧に★適正播種量で苗立ち確保	★排水溝は随時手直しする			★赤かび病防除の徹底	★適期刈取りで高品質麦に	
●乾燥種子10kg当たりベンレートコート50gを均一に粉衣する。 ●種子消毒の実施 (病害発生防止のため実施する。)	●土壌pH6.0～6.5を確保。 ●耕起前に粒状貝化石を150～200kg/10a施用する。 ●ポイント②	●除草剤散布 ●ポイント③ ●ただし、表面散播では使用できないので注意する。 (ただし、表面散播では使用できないので注意する。)	●排水溝を補修して湿害を発生させない。	●融雪直後に野を駆除を実施する。	●融雪直後に野を駆除を実施する。	●赤かび病の防除 ●1回目防除は穂揃期(開花始め) ●2回目防除は1回目散布の7日後 ●ポイント④	●刈取り ●除去する。 ●カラスノエンドウを ●刈取り前に圃場内から ●徹底する。 ●ためにコンバインの清掃を ●異種穀粒の混入を防止する ●刈取り準備 ●防除効果を高めるため適期に防除する。 ●1回目防除は穂揃期(開花始め) ●2回目防除は1回目散布の7日後 ●ポイント④	●収穫後の圃場管理 ●大豆や野菜栽培による有効 ●活用を努める。 ●緑肥作物の作付けにより ●地力増進等に努める。 ●(額縁排水溝を設置する)。 ●ポイント⑥

発芽・苗立ち確保のポイント 単収向上には初期生育の確保が重要

- 排水対策 → ① 稲刈り後、すぐに額縁排水溝を設置 ② 額縁排水溝の深さは30cm以上
- 土壌改良 → ① 石灰質資材の施用 ② 有機物の施用
- 適正播種 → ① 10月上旬中心の播種 ② 適正な播種量 ③ 播種深度は3cm程度 ④ 畦幅は3m以内
- 播種後の管理 → ① 雑草防除対策 ② 排水溝の連結点検

排水対策

●排水対策

① 水口はしっかり止める ② 額縁排水溝は稲刈り後すぐに設置する ③ 排水口は深く掘り下げる

④ サブソイラ等による心土破碎で透水性を改善する ⑤ 播種時のサイドリッジャ等で基幹排水溝を設置する ⑥ 排水溝は確実に連結する

排水口は額縁排水溝より深く掘り下げる

ポイント② 土づくり・施肥・播種

●土づくり(pH矯正)・施肥

- 土壌改良資材を施用し、土壌のpH6.0～6.5を確保する
- 深耕により作土深を確保し、根域を拡大させる
- 基準となる基肥量を確実に施用する

★施肥の目安(10a当たり)

施用時期	耕起前	播種時基肥	備考
資材名・施用量	粒状貝化石 ※ 沖積土壌 150～200kg 洪積土壌 150kg 発酵けいふん(粒) 沖積土壌 150kg 洪積土壌 100kg	エコ大麦44号 45～50kg	原則追肥しない

※土壌診断の結果 pHが低い場合は多めに施用する

●播種時期に応じ、適正量を播種する

- ① 播種適期は10月上旬
- ② 生育量を確保するため10月中旬までには播種を完了する
- ③ 栽培面積が大きい場合は9月末より乾いた圃場から計画的に播種する

●播種時期と播種量の目安

播種期	目標苗立数(本/m ²)	播種量の目安(kg/10a)	
		ドリル播	表面散播
9月26～30日	140	6.0	6.5
10月上旬(10月中旬)	150(200)	6.5(8.5)	7.0(9.0)

ポイント③ 雑草防除

●播種後、速やかに除草剤を散布し、肥料成分が雑草に奪われるのを防ぐ(ただし、表面散播では使用できないので注意する)

【一般的な防除】

除草剤名	適用雑草	使用時期	使用量及び散布液量(10a当たり)	使用方法
ボクサー	一年生雑草	播種後～麦2葉期(雑草発生前～発生始期)	薬量 400～500mL 希釈水量 70～100L	土壌表面散布

【雑草が少ない圃場】

除草剤名	適用雑草	使用時期	使用量及び散布液量(10a当たり)	使用方法
トレファノサイド乳剤	一年生雑草	播種後出芽前(雑草発生前)	薬量 200～300mL 希釈水量 100L	土壌表面散布
トレファノサイド粒剤2.5	(ツクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	播種後出芽前	散布量 4～5kg	土壌表面散布

【カラスノエンドウが多い圃場】

除草剤名	適用雑草	使用時期	使用量及び散布液量(10a当たり)	使用方法
リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後～麦3葉期(雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	薬量 60～80mL 希釈水量 100L	土壌表面散布
リベレーターG	一年生雑草	播種後～麦2葉期(雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	散布量 4～5kg	土壌表面散布

除草剤散布による効果

散布区

条間の雑草が少ない

ポイント④ 赤かび病防除

●適期に2回確実に実施!

施用時期	薬剤名	使用量及び散布液量(10a当たり)
1回目 穂揃期(開花始め)	トップジンM粉剤DL トップジンM水和剤 トップジンMゾル (無人航空機の場合)	4kg 1,000倍 / 150L 1,500倍 / 150L 8倍 / 0.8L
2回目 1回目散布の7日後	ワークアップ粉剤DL ワークアップフロアブル (無人航空機の場合)	3kg 2,000倍 / 150L 10～16倍 / 0.8L

赤かび病被害株

ポイント⑥ 緑肥作物による地力増進

●栽培体系と効果

作物	クロタリヤ	ソルゴー
生育特性	草長 1.5～2m 生草量 4t/10a 程度	草長 1.5m程度(短穂品種)
播種期	6月上旬～8月上旬	6月上旬～8月上旬
播種量	5～6kg/10a(条播)	3～5kg/10a(条播)
すき込み時期	普通種: 播種後50～70日 広葉種: 播種後60～80日	出穂前(播種後50～60日後頃)
特徴	窒素濃度は高く、土壌中での分解が速いため、肥料としての効果は高い	C/N比が高く、分解が緩慢であるため、物理性の改善や腐食の増加に効果がある

●栽培体系と効果

大 麦 (前年9月～当年6月)

緑肥作物 (当年6月～9月)

水 稻 (翌年5月～9月)

効果

- ・大麦あと圃場の雑草とカメムシの発生抑制
- ・緑肥作物による地力回復
- ・緑肥あとの水稲栽培における基肥減肥

※安全安心な大麦を生産、販売するために『生産記録簿兼 GAP チェックシート』を記帳・提出しましょう。